小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	医療法人社団 はっぴねす	代表者	本田誠四郎
事業所名	こころ庵	管理者	今川智恵

法人・事業所の特徴	その人らしく、住みなれた環境で出来るだけ長く生活を維持することを目的として、当法人ならではの介護と医療の両輪でスムーズな連携を活かした継続的かつ専門的な認知症ケアを提供している。また急変時や特変時・緊急時にも柔軟に対応しながら、ご利用者の状態変化に合わせてサービス提供内容の変更を常時行っていき、住み慣れた地域での生活を維持できるよう支援している。

出席者【聞き取り】	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	１人	１人	人	２人	人	人	人	人	人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み･結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	こころ庵は生活の場であるので、皆さんが心地よい状態で過ごして頂けるケアをこれからも皆で考えて行く。ご利用者の良い所を見つけ、肯定的なケアに繋げていく。背景を知り今の状態を認めていき、捉え方やケアの工夫をする事でご利用者にとって心地よい居場所となるよう取り組んでいく。	生活の場として、安らげる空間作りや雰囲気作りは大切で、ご使用者が笑顔でいられるような関わり方をそれぞれの職員が意識を持って行っております。今期は超高齢者のお看取りが続きましたが、最期の時までその方らしく、ご家族にも寄り添って過ごして頂けるケアを提供できました。	よくしていただき感謝しております。 このような状況の中でも、丁寧にケアをして頂いている様子がよくわかりました。	ご利用者の個別性に配慮し、集団の中ではありますが、個々が活き活きと笑顔で穏やかに過ごせるケアをチーム全体で意見を出し合いながら取り組んでいく。こころ庵をひとつの大きな家族と仮定しながら、そこに暮らすご利用者それぞれに色々な役割があり、楽しく過ごせるケアを考える。
B．事業所のしつらえ・環境	こころ庵はご家族の協力や支えがあってこそ成り立っていくので、これからもご家族・地域の方が気軽に来所しやすい、開かれた施設作りを行っていく。	ご本人にもご家族にも安心して過ごせている環境やしつらえをご覧いただけるよう、こころ庵便りやオンライン面会にて、現在の状況をお伝えしている。年末年始等も遠方のご家族とオンライン面会でお話をして頂き、双方ともとても喜ばれた。	オンライン面会をさせていただき、直接会えないけど、話や様子を知る事ができました。逆に普段は面会に来れないけど、オンライン面会だからこそ、会えたご家族もいたので良かったです。	ほっと出来るような空間作り・環境面を整え、またいつの日かご家族やご親族の方々に気軽に来所して頂ける施設作りを継続する。ご希望者にはオンライン面会を行い、こころ庵便り等で事業所の雰囲気や、そこで過ごされているご利用者のご様子を定期的にお伝えしていく。
C．事業所と地域のかかわり	地域の中で医療との連携の強いサービスとして知っていただき、こころ庵ならではの利便性を活かしたサービスをこれからも提供していく。	今年度予定していた地域交流のイベントはコロナ感染症で全て中止せざるを得なかった。ご利用者にとても残念な思いをさせてしまったが、その分施設内でのイベントを増やした。人と人との距離を保つ生活になったが、地域の方との関わり合いを維持し在宅生活継続を見据えたケアを行っている	外出できなくても、施設内でのイベント等をして下さり、こころ庵だよりでもその様子を写真で拝見でき、楽しく過ごせている事が分かり安心しております。	地域の中の特に認知症や精神疾患に強い事業所として認知され、地域に貢献できるよう、これからも窓口を広げてサービス提供を継続していく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	外出行事がお好きな方・向いている方、身体状況から難しい方もいるが、どの方もそれぞれ楽しめるような多種多彩な企画を考えていき、選べるイベントを内外でも提供できるよう取り組んでいく。	施設内イベントを職員の様々なアイデアにて企画し楽しんで頂いた。訪問サービスでは送迎の際に会う地域の方々に温かいお言葉や配慮をして頂き、地域の方に助けられながらサービス提供が行えている事に感謝をしている。本人の生活リズムを整えながら、地域での在宅生活が円滑になるよう支援を行った。	季節ごとに行事をして頂き、今期は施設にいながらでも季節感が味わえるイベント等をされ、大変な中でもいい思い出が出来るよう取り組まれていました。	地域に出向いた先々での温かいお声かけやご配慮に感謝しながら、ご本人とご家族を支えるサービス事業所としての役割を自覚する。その方が地域に少しでも長く住み続ける事ができるようご本人のケアやご家族の介護負担軽減のお手伝いが出来るよう取り組んでいく。
E．運営推進会議を活かした取組み	事業所の取り組み内容や行事の報告、看取りがある時は可能な範囲でのご報告やご本人・ご家族のご様子を会議でお伝えする事で、様々なご意見も伺い、更なるケアの向上に繋げていく。	会議は中止しているが、こちらからお便りやサービス状況のご報告を定期的にさせて頂いている。中止期間も運営委員の皆様にこころ庵の様子を知っていただき、質の確保を維持できるよう取り組んでいる。	会議中止の間も、こころ庵だよりや行事報告書にて、会議で報告して下さる内容が伝わるようになっています。	会議の中止している間も、定期的なサービス状況のご報告は継続していき、こころ庵のケア・行事報告・サービス状況等の把握をしていただけるよう働きかけていく。再開時に質の向上が出来ているよう取り組む
F．事業所の防災・災害対策	昔では考えられない規模の災害が各地でも起こっている中、事業所としてご利用者の安全確保を考え、避難先としての機能が活かせるよう取り組んでいかなければならない。こころ庵はご家族支援が得られる方々が多いので、ご家族と協力して役割分担を行いながら災害時の支援を行っていく。	防災・災害に加え、コロナ感染症という新たな強敵の対策を行い、サービスを中断する事がないよう法人全体で頑張っております。コロナ禍での災害は予想できない位大変だと思います。でもケアの必要な方々を守れるよう災害時対応もご家族と協力しながら取り組みを継続しています。	コロナ禍でもサービスを中止する事なく、今まで通りのサービスを継続して下さり感謝しています。防災・災害対策もさることながら、感染症対策も行いながら大変な中本当によく頑張られています。	防災・災害・感染症と毎年のように災難が続きますが、ご利用者の生活リズムの乱れが認知症や疾患を進行させてしまうので、事業所としてサービスを継続させていく努力を今後も行っていく。